

# ●水難救助訓練●

【主催】品川・高輪・東京湾岸警察署、機動隊



7月24日(木)、天王洲運河水辺広場および東海橋防災船着場の周辺水域において、区・警察・消防のほか、災害協定を締結している民間事業者ら計178名が参加し、警視庁主導のもと「津波等を想定した水難救助訓練」が実施されました。品川区では、首都直下型地震があった場合、23区中最大の2.61メートルの高さの津波が押し寄せると想定されています。その場合に備え、区ではこれまで、沿岸部や目黒川流域など低地部に海拔標示板の設置を進め、津波自主避難マップ作成マニュアルを策定する等、津波に対する区民の防災意識の高揚に努めてきました。今回の水難救助訓練もその一環で、災害時の対応力を強化するための訓練になります。

この訓練は、昨年に引き続き2回目で、大震災発生に伴い大津波警報が発令され、品川区に津波が到達し、被害が発生したという想定での訓練が始まりました。

天王洲アイルに架かる橋が崩落したとの想定の下、対岸の天王洲アイルに取り残された人々の救出や、津波にのまれ運河に漂流している被災者の救助、救命ロープを射出して運河を漂流する被災者を救助する救命索救助の訓練を実施しました。また、目黒川上流において、新たに火災により陸路からの避難経路を断たれた被災者を、目黒川を利用した船舶による避難誘導訓練も行いました。

今回の訓練を通じて、実際に被災者が発生した場合の救助の流れや手順を確認することができました。

## ◆御殿山小学校避難所運営訓練◆

【主催】御殿山小学校避難所連絡会議

9月21日(日)、御殿山小学校において、この学校を避難所として指定されている小関親睦会、御殿山町会、袖ヶ崎新興会の方々が参加し、地震等の災害時を想定した避難所訓練が行われました。

今回の訓練内容は、「避難者名簿の作成」「避難教室の広さ体験」「AEDの操作体験」「仮設トイレの組立」「避難所設備の見学」です。その中でも仮設トイレの組立は、こういった訓練でしか体験できないものであるため、大変貴重な経験になりました。

また、避難教室の広さ体験では、実際に災害が発生し避難所を開設した場合、1人がどの程度の広さで生活することになるのかを体験しました。その広さはおよそ1人1畳ですので、相当窮屈に感じるでしょう。実際に体験した参加者は、あまりの狭さにとても驚いていました。

避難所設備の見学では、備蓄倉庫の場所や備蓄されている物資の内容を知ると同時に、避難所での生活方法を学びました。例えば「水」に関することです。御殿山小学校には、水道が止まった場合井戸や受水槽から水を得ることになりますが、井戸の水は消毒してから使用することが好ましく、飲み水としては使用することができません。一方、受水槽の中の水は、循環している水を貯めているものになります。したがって、井戸の水は飲み水以外のものに使用し、飲み水には受水槽の水を使用することになります。

今回の訓練により、災害時の避難所生活の一部を体験することができました。



## ★しながわ宿場まつり★

【主催】北品川本通り商店街・北品川商店街協同組合・京急新馬場商店街振興組合・品川宿場通り南会・青物横丁商店街振興組合

9月27日(土)・28日(日)に、東海道八ッ山口から青物横丁において「しながわ宿場まつり」が開催されました。当日は商店街を埋め尽くすほどの人が集まり、大きなにぎわいを見せていました。

27日は、午後4時より「おいらん道中」が行われ、着物を着ておいらんとなった女性たちが旧東海道を練り歩きました。夕方になり暗くなった商店街を歩く姿は、江戸を思わせる独特な雰囲気と妖艶さがあり、誰もが見とれていました。



△江戸風俗行列

28日は、商店街に江戸風俗行列が登場しました。行列には、水戸黄門や腰に刀を携えた武士、物売りかわら版屋などが現れ、まるで江戸にタイムスリップしたようでした。見物客はかわら版をもらったり、一緒に写真を撮ってもらったりと楽しんでいました。また、その他にも交通安全パレードやエコの推進パレードも行われました。子どもたちの「エコに協力してください!」という声はみなさんの耳にも残ったのではないのでしょうか。他にも、北馬場参道通りでマグロの解体ショーが行われるなど多くのイベントが行われました。

宿場まつりは今年も大好評でした!また来年が楽しみです。